

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7389667号
(P7389667)

(45)発行日 令和5年11月30日(2023.11.30)

(24)登録日 令和5年11月21日(2023.11.21)

(51)国際特許分類	F I
E 0 6 B 1/62 (2006.01)	E 0 6 B 1/62 A
E 0 4 F 13/08 (2006.01)	E 0 4 F 13/08 L
E 0 6 B 7/14 (2006.01)	E 0 4 F 13/08 V
	E 0 6 B 7/14

請求項の数 5 (全12頁)

(21)出願番号	特願2020-15275(P2020-15275)	(73)特許権者	503367376
(22)出願日	令和2年1月31日(2020.1.31)		ケイミュー株式会社
(65)公開番号	特開2021-123849(P2021-123849 A)		大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号
(43)公開日	令和3年8月30日(2021.8.30)	(74)代理人	110002527
審査請求日	令和4年12月14日(2022.12.14)		弁理士法人北斗特許事務所
		(72)発明者	西田 俊文
			大阪市中央区城見一丁目2番27号 ケイミュー株式会社内
		(72)発明者	津田 宣生
			大阪市中央区城見一丁目2番27号 ケイミュー株式会社内
		(72)発明者	大榎 浩史
			大阪市中央区城見一丁目2番27号 ケイミュー株式会社内
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 開口部周りの鎧張り構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

開口枠の側面に止水材を介して見切り縁が取り付けられ、
前記見切り縁の開放溝に鎧張り状に配置された建築板の端部が差し込まれ、
前記開口枠の角部周りにおいて、一部が前記見切り縁の裏側にある捨て水切りが設けられ、

前記捨て水切りの下部は、鎧張り状に配置された前記建築板のうちの下側の前記建築板の表面上に配置されている、
開口部周りの鎧張り構造。

【請求項2】

請求項1において、
前記捨て水切りが、前記見切り縁と、前記開口枠の角部周りの下地との間で挟まれて固定されている、
開口部周りの鎧張り構造。

【請求項3】

請求項1又は2において、
前記捨て水切りは、鎧張り状に配置された前記建築板のうちの上側の前記建築板により覆われている、
開口部周りの鎧張り構造。

【請求項4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項において、
前記開放溝に前記端部が差し込まれている前記建築板の上隅部が、前記開口枠に近づくに従って下方に傾斜している、
開口部周りの鎧張り構造。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項において、
前記開口枠は、開口部の上下両側に各々配置される横枠と、左右両側の各々配置される縦枠とを有し、
前記横枠と前記縦枠とにより構成される前記開口枠の角部と前記開口部の縁部との間にシーリングが施され、
前記縦枠から前記横枠に亘って配置されて、前記シーリングを覆うカバーをさらに備えている、

10

開口部周りの鎧張り構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、開口部周りの鎧張り構造に関する。より詳細には、本発明は、開口部周りに建築板を鎧張りした構造に関する。

【背景技術】

【0002】

20

特許文献 1 には、開口部の周囲における鎧下見張りの外壁の葺き構造が記載されている。この構造では、外壁下地の開口部の両側に設けられた開口縦枠の側縁に防水パッキンを貼着している。防水パッキンの表面にはくさび状部が複数段に形成されている。外壁材は、その上面をくさび状部の下面に当接すると共に、裏面をくさび状部の傾斜面に当接するようにしている。このような構造では、外壁材の裏面と外壁下地との間に防水パッキンが充填されているため、雨水が外壁材の裏面を伝って外壁下地に達するのを防水パッキンで防止することができ、防水性を得ることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

30

【文献】実開昭 62 - 155146 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、特許文献 1 に記載された構造では、防水パッキンをサッシ枠の全体にキッチリと密着させる必要があり、また防水パッキンを鎧張りの形状に合わせて用意する必要があった。したがって、施工に手間がかかることがあった。また、板の切断面にカケがあると、その部分から水が入ることがあり、防水性が低下する場合があった。

【0005】

本発明は、上記事由に鑑みてなされており、施工に手間がかかりにくく、防水性の低下が生じにくい開口部周りの鎧張り構造を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の一態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、開口枠の側面に止水材を介して見切り縁が取り付けられている。前記見切り縁の開放溝に鎧張り状に配置された建築板の端部が差し込まれている。前記開口枠の角部周りに捨て水切りが設けられている。前記捨て水切りの下部は前記建築板の表面上に配置されている。

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、雨水は建築板の表面から見切り縁の開放溝に導入することができ、開

50

口枠に雨水が達しにくくすることができ、また雨水は開口枠の角部周りから捨て水切りの表面を流れて建築板の表面へと排水することができ、開口部周りの防水性を向上することができる、という利点がある。さらに止水材は鎧張りの形状に合わせて加工されなくてもよく、施工に手間がかかりにくい、という利点がある。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】図 1 A は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造を示す横断面図である。図 1 B は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造を示す縦断面図である。

【図 2】図 2 A は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造に使用する上用の見切り縁を示す断面図である。図 2 B は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造に使用する上用の見切り縁を示す平面図である。図 2 C は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造に使用する左右下用の見切り縁を示す平面図である。

10

【図 3】図 3 A ~ 図 3 D は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造に使用する捨て水切りを示す正面図である。

【図 4】図 4 A ~ 図 4 C は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造の施工途中を示す説明図である。

【図 5】図 5 A ~ 図 5 C は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造の施工途中を示す説明図である。

【図 6】図 6 A ~ 図 6 C は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造の施工途中を示す説明図である。

20

【図 7】図 7 は、本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造の施工途中を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 9 】

(実施形態)

本実施形態に係る開口部周りの鎧張り構造は、下地 7 に形成された開口部 8 の周囲に建築板 4 を鎧張り状に配置した構造を有している（図 1 A 及び図 1 B 参照）。下地 7 は壁下地であって、下地 7 の外面に複数枚の建築板 4 が配置されている。なお、本実施形態は、建物の外壁における開口部周りの鎧張り構造を説明する。この場合、「室外側」とは、建物の外部（屋外）のことを意味し、「室内側」とは、建物の内部（屋内）のことを意味する。

30

【 0 0 1 0 】

下地 7 は、まぐさ 7 0、窓台 7 1 及び間柱 7 2 を有している。まぐさ 7 0 及び窓台 7 1 は一対の間柱 7 2 の間に架け渡して取り付けられている。また下地 7 は、補助胴縁 7 3 を有している。補助胴縁 7 3 は、まぐさ 7 0、窓台 7 1 及び間柱 7 2 の各々の室外側面に設けられている。また下地 7 は、縦胴縁 7 4 を有している。縦胴縁 7 4 は、まぐさ 7 0 の室外側面に設けた補助胴縁 7 3 の上方と、窓台 7 1 の室外側面に設けた補助胴縁 7 3 の下方とに各々設けられている。さらに下地 7 は、下地板 7 5 を有している。下地板 7 5 は合板や石膏ボードなどの板材で構成されている。下地板 7 5 は補助胴縁 7 3 及び縦胴縁 7 4 の室外側面に設けられている。そして、下地 7 は開口部 8 を有している。開口部 8 は、下地板 7 5 の室外側から間柱 7 2、まぐさ 7 0 及び窓台 7 1 の室内側にまで至るように形成されている。開口部 8 は、正面視（室外側から見た場合）で四角形に形成されている。

40

【 0 0 1 1 】

下地 7 には開口枠 1 が取り付けられている。開口枠 1 はアルミニウムなどの金属製の枠体を使用することができる。開口枠 1 は、例えば、サッシ枠などを用いた窓枠で構成することができる。開口枠 1 の内側には窓板を設けると窓を形成することができる。また開口枠 1 としてレール部材を使用すると、窓板を引き戸として開閉可能な窓を形成することができる。

【 0 0 1 2 】

開口枠 1 は開口部 8 の縁部 8 0 に沿って開口部 8 の全周にわたって設けられている。し

50

たがって、開口枠 1 は正面視で四角形に形成されている。開口枠 1 は横枠 1 2 と縦枠 1 3 とを有している。横枠 1 2 は横方向に沿って延びるように形成されている。横枠 1 2 は開口部 8 の上の縁部 8 0 と、開口部 8 の下の縁部 8 0 との各々にほぼ全長にわたって設けられている。また縦枠 1 3 は開口部 8 の左の縁部 8 0 と、右の縁部 8 0 との各々にほぼ全長にわたって設けられている。開口枠 1 の室内側の端部は、まぐさ 7 0 と窓台 7 1 と一対の間柱 7 2 に釘やビスなどで固定されている。また開口枠 1 の室外側の端部は開口部 8 の室外側端部よりも外側に突出している。すなわち、開口枠 1 の室外側の端部は、下地板 7 5 の室外側面よりも室外側（前方）に位置している。

【 0 0 1 3 】

開口枠 1 には、止水材 2 を介して見切り縁 3 が取り付けられている。見切り縁 3 はアルミニウムなどの金属製の部材である。図 2 A に示すように、見切り縁 3 は横断面形状が略コの字形状をなし、開放溝 3 0 を有している。また見切り縁 3 は、固定部 3 1 と被覆部 3 2 とを有している。固定部 3 1 と被覆部 3 2 は対向しており、固定部 3 1 と被覆部 3 2 との間の空間が開放溝 3 0 として形成されている。固定部 3 1 と被覆部 3 2 との一端は連結部 3 4 により連結されている。この連結部 3 は、横断面がクランク形状をなし、連結部 3 4 の外面（開放溝 3 0 と反対側の面）に止水材 2 が設けられている。止水材 2 は防水シーラーであって、ゴムやエラストマーなどの弾性を有する材料で形成されている。図 2 B は、開口枠 1 の上面 1 4 に設けられる上用の見切り縁 3 a であり（図 1 B 参照）、見切り縁 3 a には被覆部 3 2 に排水用の孔 3 3 が設けられている。図 2 C は、開口枠 1 の側面 1 0 及び下面 1 5 に設けられる左右下用の見切り縁 3 b であり（図 1 A 及び図 1 B 参照）、見切り縁 3 b には排水用の孔 3 3 が設けられていない。また、開放溝 3 0 の固定部 3 1 側の内面には、位置決め片 3 5 が突出形成されており、この位置決め片 3 5 に、開放溝 3 0 に差し込まれた建築板 4 の端面が当たって位置決めされる。

【 0 0 1 4 】

見切り縁 3 は開口枠 1 の外周面に沿って設けられている。見切り縁 3 は、開口部 8 よりも室外側に配置されている。すなわち、見切り縁 3 は、開口部 8 よりも室外側に突出する開口枠 1 の室外側端部に沿って設けられている。見切り縁 3 は、開口部 8 の縁部 8 0 において、下地 7 の室外側面に固定されている。この場合、見切り縁 3 の固定部 3 1 が下地板 7 5 の表面に両面防水テープなどの固定部材で固定されている。

【 0 0 1 5 】

開口枠 1 の横方向の側面 1 0 には見切り縁 3 が設けられている。この場合、見切り縁 3 は縦方向に延びるように設けられている。また止水材 2 は側面 1 0 に密着して配置される。したがって、開放溝 3 0 は開口部 8 とは反対側に向いて開放されることになる。また開口枠 1 の上面 1 4 にも見切り縁 3 が設けられている。この場合、見切り縁 3 は横方向に延びるように設けられている。また止水材 2 は上面 1 4 に密着して配置される。したがって、開放溝 3 0 は開口部 8 とは反対側（上方）に向いて開放されることになる。また開口枠 1 の下面 1 5 にも見切り縁 3 が設けられている。この場合、見切り縁 3 は横方向に延びるように設けられている。また止水材 2 は下面 1 5 に密着して配置される。したがって、開放溝 3 0 は開口部 8 とは反対側（下方）に向いて開放されることになる。

【 0 0 1 6 】

このように開口枠 1 に止水材 2 を密着させた状態で見切り縁 3 を配置することにより、開口枠 1 と見切り縁 3 の連結部 3 4 との間から雨水が室内側へと浸入しにくくなり、開口部 8 の周囲の防水性を向上させることができる。

【 0 0 1 7 】

開口枠 1 の周囲には複数の建築板 4 が取り付けられている。各建築板 4 は釘やビスなどの固定具で下地 7 に固定されている。建築板 4 は下地板 7 5 の室外側面に沿って縦横に並べて配置されている。複数の建築板 4 は鍍張り状に配置されている。すなわち、縦方向で隣接する建築板 4 において、上側の建築板 4 の下部が下側の建築板 4 の上部の表面上に位置するようにして配置されている。つまり、縦方向で隣接する建築板 4 の上部と下部とが重なった状態で施工されている。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 8 】

建築板 4 の端部 4 0 は見切り縁 3 の開放溝 3 0 に差し込まれている。すなわち、開口枠 1 の上方に位置する建築板 4 の端部（下端部）4 0 は、開口枠 1 の上に設けた見切り縁 3 の開放溝 3 0 に上方から差し込まれている。また開口枠 1 の下方に位置する建築板 4 の端部（上端部）4 0 は、開口枠 1 の下に設けた見切り縁 3 の開放溝 3 0 に下方から差し込まれている。また開口枠 1 の側方に位置する建築板 4 の端部（側端部）4 0 は開口枠 1 の横に設けた見切り縁 3 の開放溝 3 0 に側方から差し込まれる。

【 0 0 1 9 】

このように、建築板 4 の端部 4 0 を開放溝 3 0 に差し込むことにより、端部 4 0 が被覆部 3 2 で隠されて室外側から見えにくくなる。したがって、建築板 4 が長さ調整のために切断された場合に、端部 4 0 に欠けが生じている場合であっても、この欠けが被覆部 3 2 で見えにくくなって、壁の外観が損なわれにくい。また建築板 4 の表面を流れる雨水が開放溝 3 0 に導入されて開放溝 3 0 内を流れて排水されることになり、開口枠 1 に雨水が到達しにくくなって、開口部 8 の周囲の防水性を向上させることができる。

【 0 0 2 0 】

本実施形態では、さらに、捨て水切り 5 を備えている。捨て水切り 5 は、開口部 8 の周囲の防水性を向上させるための部材である。捨て水切り 5 は正面視で四角形の開口枠 1 の四つの角部 1 1 に対応する位置に各々設けられている。図 3 A ~ 図 3 D に示すように、捨て水切り 5 は本体部 5 1 と止水部 5 2 とを有している。本体部 5 1 はステンレス鋼板などの金属板で形成されている。本体部 5 1 は縦方向に延びるように形成されており、本体部 5 1 の側端部には縦方向に沿って延びる水返し部 5 3 が設けられている。また本体部 5 1 には開口枠 1 の角部 1 1 が配置される切欠部 5 4 が設けられている。この切欠部 5 4 周り（捨て水切り 5 の一部）が見切り縁 3 の裏側に位置する。水返し部 5 3 は本体部 5 1 の表面に突出するように形成されている。止水部 5 2 は本体部 5 1 の表面において水返し部 5 3 に沿って設けられている。止水部 5 2 は防水シーラーであって、ゴムやエラストマーなどの弾性を有する材料で形成されている。図 3 A に示す捨て水切り 5 a は、開口枠 1 の左上の角部 1 1 に対応する位置に配置される。図 3 B に示す捨て水切り 5 b は、開口枠 1 の右上の角部 1 1 に対応する位置に配置され、左上用の捨て水切り 5 a に対して左右対称形状を有している。図 3 C に示す捨て水切り 5 c は、開口枠 1 の左下の角部 1 1 に対応する位置に配置される。図 3 D に示す捨て水切り 5 d は、開口枠 1 の右下の角部 1 1 に対応する位置に配置され、左下用の水切り 5 c に対して左右対称形状を有している。

【 0 0 2 1 】

本実施形態を施工するにあたっては、まず、図 4 A に示すように、開口部 8 に開口枠 1 を設けた下地 7 に対して、建築板 4 を取り付けしていく。横方向に隣接する建築板 4 は突付けて配置される。また横方向に一行に並ぶ建築板 4 を一段とし、下から上に向かって一段ずつ建築板 4 を取り付けしていく。建築板 4 は開口枠 1 に達する段よりも一段下にまで取り付け。なお、「左」とは、正面視（建物の外壁を室外側から見た場合）において、横方向の一方側を意味し、「右」とは、正面視において、横方向の他方側（左と反対側）を意味する。「上」とは鉛直上方向を意味し、「下」とは鉛直下方向を意味する。上下方向は縦方向と同義である。

【 0 0 2 2 】

次に、図 4 B に示すように、開口枠 1 の下部の左右両側の角部 1 1 の周囲において、捨て水切り 5 を配置する。ここでは、捨て水切り 5 は左下用の捨て水切り 5 c と右下用の捨て水切り 5 d が使用される。捨て水切り 5 は切欠部 5 4 を開口枠 1 の角部 1 1 に位置させ、開口枠 1 の外周面に沿わせるように配置する。また捨て水切り 5 は上部（正面視において上側略半分の部分）が下地 7 に固定される。この場合、捨て水切り 5 に釘穴やビス穴が形成されないように、粘着テープなどで捨て水切り 5 の裏面を下地 7 の下地板 7 5 の室外側面に固定する。また捨て水切り 5 は下部（正面視において下側略半分の部分）が建築板 4 の表面上（室外側面上）に配置される。この場合、捨て水切り 5 の下部は捨て水切り 5 の上端よりも下側に位置する建築板 4 の表面上に配置される。また捨て水切り 5 の下部は

10

20

30

40

50

下段の建築板 4 の表面上に配置される。すなわち、縦方向で隣接する建築板 4 のうちの下側の建築板 4 の表面上に配置される。また捨て水切り 5 は下段の建築板 4 の上部（正面視において上側略半分の部分）の表面上に配置される。下段の建築板 4 の上部は上段の建築板 4 の下部が重なる部分であって、非暴露部 4 2 である。捨て水切り 5 は非暴露部 4 2 よりも下方に位置しないように、切断等により長さ調整される。なお、図 4 B 及び図 4 C において、建築板 4 に付した想像線よりも上側の部分が非暴露部 4 2 であり、想像線よりも下側の部分が暴露部 4 3 である。

【 0 0 2 3 】

次に、図 4 C に示すように、見切り縁 3 が取り付けられる。ここでは、見切り縁 3 は左右下用の見切り縁 3 b が使用され、開口枠 1 の左右両側の側面 1 0 に沿って縦方向に沿って延びるように取り付けられ、また開口枠 1 の下面 1 5 に沿って横方向に延びるように取り付けられる。見切り縁 3 は、粘着テープを開口枠 1 の側面 1 0 及び下面 1 5 に密着させ、止水材 2 を押しつぶすように押さえながらビス等で下地 7 に固定する。また開口枠 1 の左右両側に配置した見切り縁 3 は、その下端が捨て水切り 5（捨て水切り 5 c 及び 5 d）の表面上に配置される。これにより、見切り縁 3 の開放溝 3 0 を縦方向に流れる雨水が捨て水切り 5 上に流れることになり、防水性を向上させることができる。また開口枠 1 の下側に配置した見切り縁 3 はその左右両端がそれぞれ捨て水切り 5 の表面上に配置される。これにより、見切り縁 3 の開放溝 3 0 を横方向に流れる雨水（横走）が捨て水切り 5 上に流れることになり、防水性を向上させることができる。また、捨て水切り 5 は見切り縁 3 と開口枠 1 の角部 1 1 周りの下地 7 との間で挟まれて固定される。

【 0 0 2 4 】

次に、図 5 A に示すように、開口枠 1 の角部 1 1 の周囲において、シーリングを施す。シーリングは、横枠 1 2 と縦枠 1 3 とにより構成される開口枠 1 の角部 1 1 と開口部 8 の縁部 8 0 との間の隙間を塞ぐようにして設けられる。また角部 1 1 における横枠 1 2 と縦枠 1 3 との接合部分の隙間を塞ぐようにして設けられる。その他、捨て水切り 5 の表面と見切り縁 3 の端部との間の隙間など、防水性を損なうおそれがある隙間をシーリングで塞ぐ。

【 0 0 2 5 】

次に、図 5 B に示すように、開口枠 1 の下方及び側方において、複数の建築板 4 をさらに下から上に向かって取り付けしていく。このとき、開口枠 1 に隣接して配置される建築板 4 の端部 4 0 は見切り縁 3 の開放溝 3 0 に差し込まれる。開口枠 1 に隣接して配置される建築板 4 は長さ調整のため、あるいは開口枠 1 の形状に合わせるために、切断される場合がある。また図 5 C に示すように、開口枠 1 の側方に隣接している建築板 4 の上隅部 4 1 は開口枠 1 に近づくに従って下方に傾斜している。すなわち、上隅部 4 1 は見切り縁 3 に向かう方向に下り傾斜している。これにより、建築板 4 の上隅部 4 1 から見切り縁 3 の開放溝 3 0 に向かって雨水が流れやすくなり、排水性を向上させることができる。

【 0 0 2 6 】

また捨て水切り 5 は鎧張り状に配置された建築板 4 のうちの上側の建築板 4 により覆われる。すなわち、下段の建築板 4 の非暴露部 4 2 の表面上に配置された捨て水切り 5 の下部は、上段の建築板 4 の暴露部 4 3 で覆われる。また捨て水切り 5 の上部は上段の建築板 4 の非暴露部 4 2 の裏側に位置し、この非暴露部 4 2 で覆われる。このようにすると、捨て水切り 5 が室外側から見えにくくなって、外観が損なわれにくくなる。また捨て水切り 5 の止水部 5 2 は建築板 4 の裏面と密着し、防水性が向上する。

【 0 0 2 7 】

次に、図 6 A に示すように、開口枠 1 の上部の左右両側の角部 1 1 の周囲において、捨て水切り 5 を配置する。ここでは、捨て水切り 5 は左上用の捨て水切り 5 a と右上用の捨て水切り 5 b が使用される。捨て水切り 5 は切欠部 5 4 を開口枠 1 の角部 1 1 の周辺に位置させ、開口枠 1 の上面 1 4 に沿わせるように配置する。また見切り縁 3 b の上部の裏側に捨て水切り 5 の下部が配置される。そして、捨て水切り 5 は上部が下地 7 に固定される。この場合、捨て水切り 5 に釘穴やビス穴が形成されないように、粘着テープなどで捨て

水切り 5 の裏面を下地 7 の下地板 7 5 の室外側面に固定する。また捨て水切り 5 の下部は、開口枠 1 の側方において、建築板 4 の表面上に配置される。この場合、捨て水切り 5 の下部は捨て水切り 5 の上端よりも下側に位置する建築板 4 の表面上に配置される。また捨て水切り 5 の下部は下段の建築板 4 の表面上に配置される。すなわち、縦方向で隣接する建築板 4 のうちの下側の建築板 4 の表面上に配置される。下段の建築板 4 の上部は上段の建築板 4 の下部が重なる部分であって、非暴露部 4 2 である。捨て水切り 5 は非暴露部 4 2 よりも下方に位置しないように、切断等により長さ調整される。

【 0 0 2 8 】

次に、図 6 B に示すように、見切り縁 3 が取り付けられる。ここでは、見切り縁 3 は上用の見切り縁 3 a が使用され、開口枠 1 の上面 1 4 に沿って横方向に延びるように取り付けられる。見切り縁 3 は、粘着テープを開口枠 1 の上面 1 4 に密着させ、止水材 2 を押しつぶすように押さえながらビス等で下地 7 に固定する。また開口枠 1 の上側に配置した見切り縁 3 は、その左右両端が上側の捨て水切り 5 の表面上に配置される。これにより、見切り縁 3 の開放溝 3 0 を横方向に流れる雨水（横走）が捨て水切り 5 上に流れることになり、防水性を向上させることができる。また、捨て水切り 5 は見切り縁 3 と開口枠 1 の角部 1 1 周りの下地 7 との間で挟まれて固定される。

10

【 0 0 2 9 】

次に、開口枠 1 の上部の周囲において、シーリングを施す。シーリングは、横枠 1 2 と縦枠 1 3 とにより構成される開口枠 1 の角部 1 1 と開口部 8 の縁部 8 0 との間の隙間を塞ぐようにして設けられる。また角部 1 1 における横枠 1 2 と縦枠 1 3 との接合部分の隙間を塞ぐようにして設けられる。その他、捨て水切り 5 の表面と見切り縁 3 の端部との間の隙間など、防水性を損なうおそれがある隙間をシーリングで塞ぐ。

20

【 0 0 3 0 】

次に、図 6 C に示すように、開口枠 1 の上方において、複数の建築板 4 をさらに下から上に向かって取り付けしていく。このとき、開口枠 1 に上方に隣接して配置される建築板 4 の端部（下端部）4 0 は上の見切り縁 3 の開放溝 3 0 に差し込まれる。また捨て水切り 5 は鎧張り状に配置された建築板 4 のうちの上側の建築板 4 により覆われる。すなわち、下段の建築板 4 の非暴露部 4 2 の表面上に配置された捨て水切り 5 の下部は、上段の建築板 4 の暴露部 4 3 で覆われる。また捨て水切り 5 の上部は上段の建築板 4 の非暴露部 4 2 の裏側に位置し、この非暴露部 4 2 で覆われる。このようにすると、捨て水切り 5 が室外側から見え、外観が損なわれにくくなる。また捨て水切り 5 の止水部 5 2 は建築板 4 の裏面と密着し、防水性が向上する。

30

【 0 0 3 1 】

次に、図 7 に示すように、カバー 9 が見切り縁 3 に取り付けられる。カバー 9 は金属製であって、断面形状が略コ字状であり、正面視形状が略 L 字状に形成されている。カバー 9 は、開口枠 1 の四隅の角部 1 1 の周囲において、縦方向に延びる見切り縁 3 と横方向に延びる見切り縁 3 とにわたって取り付けられる。カバー 9 は、各見切り縁 3 の端部にキャップのように、はめ込んで取り付けられる。これにより、カバー 9 は開口枠 1 の縦枠 1 3 から横枠 1 2 に亘って配置される。カバー 9 は角部 1 1 の周囲に設けたシーリングを覆うものであり、シーリングに雨水がかかりにくくなって、防水性を向上させることができる。

40

【 0 0 3 2 】

（変形例）

実施形態は、本発明の様々な実施形態の一つに過ぎない。実施形態は、本発明の目的を達成できれば、設計等に応じて種々の変更が可能である。

【 0 0 3 3 】

実施形態では、開口部が壁下地に形成されていたが、これに限られず、例えば、開口部は屋根下地に形成されていてもよい。この場合、屋根下地の開口部は天窓として利用できる。

【 0 0 3 4 】

実施形態では、開口部が窓として使用される場合について説明したが、これに限られず

50

、例えば、開口部は玄関等の出入り口に使用されてもよい。

【 0 0 3 5 】

(まとめ)

以上説明したように、第 1 の態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、開口枠 1 の側面 1 0 に止水材 2 を介して見切り縁 3 が取り付けられている。見切り縁 3 の開放溝 3 0 に鎧張り状に配置された建築板 4 の端部 4 0 が差し込まれている。開口枠 1 の角部 1 1 周りにおいて、一部が見切り縁 3 の裏側にある捨て水切り 5 が設けられている。捨て水切り 5 の下部は建築板 4 の表面上に配置されている。

【 0 0 3 6 】

この態様によれば、止水材 2、見切り縁 3 及び捨て水切り 5 により、開口枠 1 の周囲を流れる雨水が開口部に浸入しにくくなり、開口部周りの防水性を向上させることができる、という利点がある。

10

【 0 0 3 7 】

第 2 の態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、第 1 の態様において、捨て水切り 5 が、見切り縁 3 と、開口枠 1 の角部 1 1 周りの下地 7 との間で挟まれて固定されている。

【 0 0 3 8 】

この態様によれば、捨て水切り 5 が釘又はビスなどを使用しなくても固定することができ、捨て水切り 5 に孔が形成されなくなると防水性が向上する、という利点がある。

【 0 0 3 9 】

第 3 の態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、第 1 又は 2 の態様において、捨て水切り 5 が、鎧張り状に配置された建築板 4 のうちの上側の建築板 4 により覆われている。

20

【 0 0 4 0 】

この態様によれば、捨て水切り 5 が外から見えにくくなって、外観が損なわれにくくなる、という利点がある。

【 0 0 4 1 】

第 4 の態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、第 1 ～ 3 のいずれか 1 つの態様において、開放溝 3 0 に端部 4 0 が差し込まれている建築板 4 の上隅部 4 1 が、開口枠 1 に近づくに従って下方に傾斜している。

【 0 0 4 2 】

この態様によれば、建築板 4 の上隅部 4 1 から開放溝 3 0 に向かって雨水が流れやすくなり、開放溝 3 0 による排水性を向上させることができる、という利点がある。

30

【 0 0 4 3 】

第 5 の態様に係る開口部周りの鎧張り構造は、第 1 ～ 4 のいずれか 1 つの態様において、開口枠 1 は、開口部 8 の上下両側に各々配置される横枠 1 2 と、左右両側の各々配置される縦枠 1 3 とを有する。横枠 1 2 と縦枠 1 3 とにより構成される開口枠 1 の角部 1 1 と開口部 8 の縁部 8 0 との間にシーリングが施されている。縦枠 1 3 から横枠 1 2 に亘って配置されて、シーリングを覆うカバー 9 をさらに備えている。

【 0 0 4 4 】

この態様によれば、シーリングとカバー 9 により、開口枠 1 の角部 1 1 と開口部 8 の縁部 8 0 との間に雨水が浸入しにくくなり、防水性を向上させることができる、という利点がある。

40

【符号の説明】

【 0 0 4 5 】

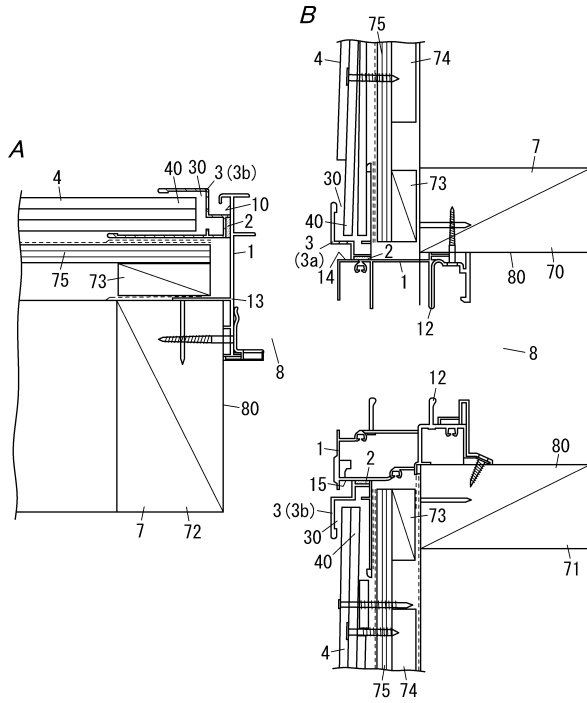
- 1 開口枠
- 1 0 側面
- 1 1 角部
- 1 2 横枠
- 1 3 縦枠
- 2 止水材
- 3 見切り縁

50

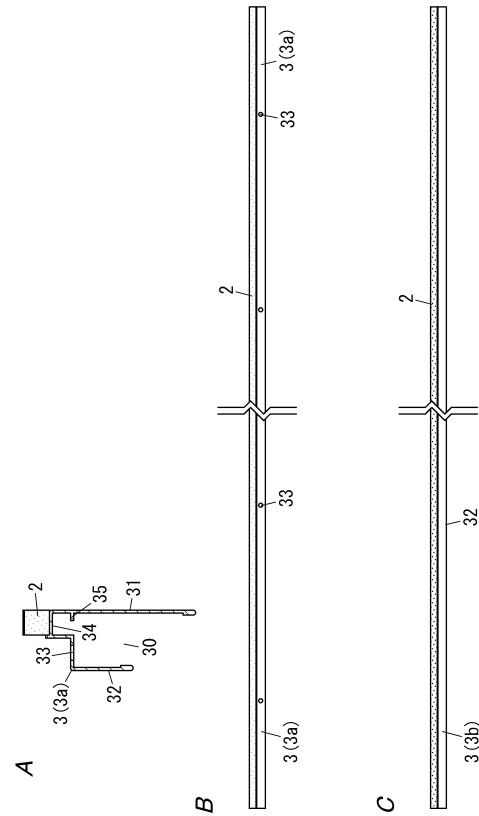
- 3 0 開放溝
- 4 建築板
- 4 1 上隅部
- 5 捨て水切り
- 7 下地
- 8 開口部
- 8 0 縁部
- 9 カバー

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

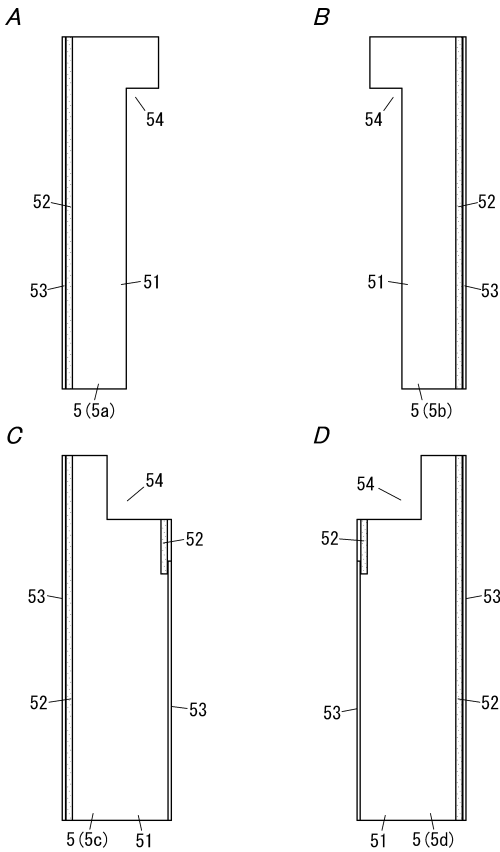
20

30

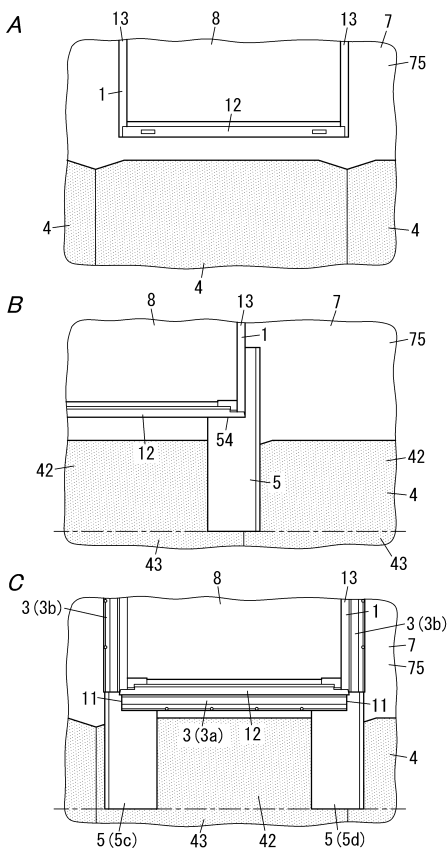
40

50

【図 3】



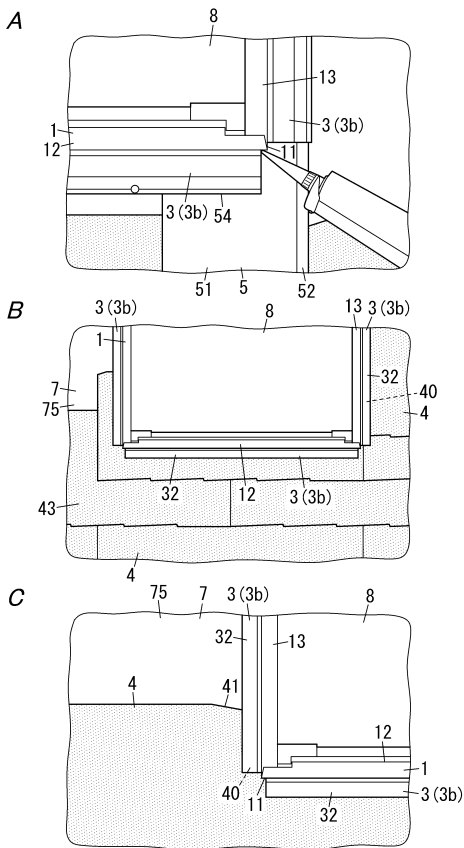
【図 4】



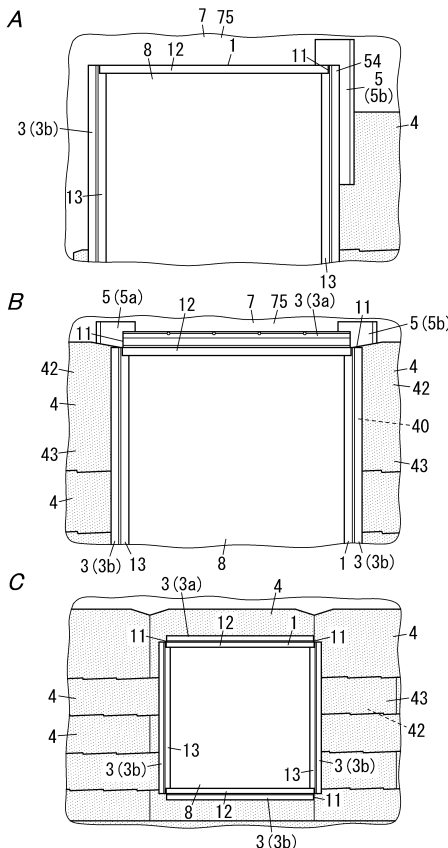
10

20

【図 5】



【図 6】

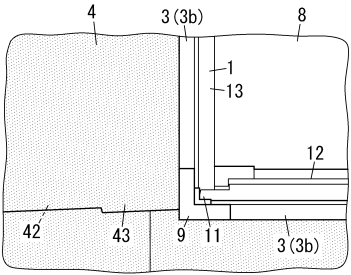


30

40

50

【 図 7 】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

審査官 河本 明彦

(56)参考文献 実開昭 5 9 - 1 6 8 4 8 1 (J P , U)

実開昭 5 9 - 0 4 8 9 4 6 (J P , U)

実開昭 6 3 - 1 8 4 9 2 4 (J P , U)

特開平 0 3 - 0 5 9 2 8 5 (J P , A)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)

E 0 6 B 1 / 0 0 - 1 / 7 0

E 0 4 F 1 3 / 0 0 - 1 3 / 3 0

E 0 6 B 7 / 1 2 - 7 / 1 4 , 7 / 2 6

E 0 4 B 1 / 6 4